

厚生労働行政推進調査事業費補助金(厚生労働科学特別研究事業)
(分担)研究報告書

熊本地震後の虚血性脳卒中およびけいれん患者の臨床像に関する研究

研究分担者 稲富雄一郎 済生会熊本病院神経内科

平成28年熊本地震における虚血性脳卒中およびけいれんの臨床像について調査検討した。詳細は添付のPDFを参照。

済生会熊本病院神経内科医長

A. 研究目的

熊本地震後の虚血性脳卒中、けいれん患者への臨床像を解析する

B. 研究方法

熊本市内基幹病院で神経内科を標榜する5施設において、脳卒中、けいれんの実態調査をカルテ等で行う。

(倫理面への配慮)

後ろ向き研究であり、介入ではなく、済生会熊本病院倫理委員会から承認されている。

C. 研究結果

脳卒中の入院は過去3年と比し、1.18倍。臨床像に平時との差なし。

けいれんは、発災3ヶ月間を通し男性が多かった。早期の2週間では女性が多かった。非てんかん性けいれんが多かった。

D. 考察

脳卒中は、脱水、過凝固の所見なく、有意な増加とはいえない。ただ、避難所の発生は早期に頻度が高かった。

けいれんは発災直後は多かったが、被災者への精神的ケアは地震後けいれんの予防に有効である可能性がある。

詳細は、添付PDFを参照。

E. 結論

虚血性脳卒中は、わずかに入院患者数増加がみられた。けいれんは、直後に来院数は増加したが、以降は例年なみであった。発症の時期に関して、性差が認められた。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

Yuichiro Inatomi, Makoto Nakajima, Toshiro Yonehara, Yukio Ando. Clinical characteristics of patients seizure following the 2016 Kumamoto earthquake.

J Clin Neurosci in press 2017

稲富雄一郎: 熊本地震と循環器病 神経内科医の立場から 脳卒中とてんかんについて JSA News, 47, 2016;47:8-9

稲富雄一郎: 脳卒中やけいれんの発症の実態は? 治療, 2016;98:1797-1799

2. 学会発表

稲富雄一郎, 原健太郎, 井建一郎, 神宮隆臣, 永沼雅基, 池野幸一, 米原敏郎, 安東由喜雄: 平成28年熊本地震後のけいれん患者の臨床像. 第216回日本神経学会九州地方会. Dec 17, 2016, 久留米.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし